鹽竈さま

発行所 〒985-8510 塩竈市一森山一番一号
志波彦神社
鹽竈神社　社務所
電話　〇二二（三六七）一六一一（代）
FAX　〇二二（三六五）五五三〇
http://www.shiogamajinja.jp/

七月十日を中心とした当鹽竈神社の例祭では、直近の日曜日に流鏑馬が神事として行われる。その淵源は古く、鎌倉時代に奥州留守職であった伊沢家景が、神慮（神のみこころ）を慰め奉る為、当社に馬三頭を奉献して流鏑馬を行った事が始まりと言われている。射手に選ばれた家臣たちは、馬術と弓術に励む事で武芸全般の向上に努め、家臣全体の士気や精神力、更には、信仰心を高める神事と伝えられてきた。射手の装いは、綾藺笠をかぶり、水干を垂領に着て左袖を脱ぎ、射籠手を付け、鹿の毛皮で作った行縢をはき、背には箙を付け、祓いを受けてから神事に臨む。三人の射手が三つの的を次々と射抜くその姿は、勇壮且つ敬虔な武士を思わせる。的中時の音は、力強く清々しく、何とも言い難いものであり、会場となる馬場は、盛大な拍手と笑顔に包まれる。的中した矢と的は除災招福の瑞祥とされてきた。

「かしこしや
　志波彦しほがまならびたち
　　御稜威かがやく一森の山」

当社に伝わる神楽歌「一森の舞」は、御両社の大神様の広大無辺なる御稜威、すなわち御威光を称える歌である。御稜威を拝戴するうえで重要なのは祭祀の厳修であり、例祭はその最たるもの。

今年も例祭を、流鏑馬神事を、県内外から多くの崇敬者が参列され、厳粛かつ盛大に斎行される。御稜威を頂いて、災禍なき平穏な世の中となるよう切に願うばかりである。

鹽竈神社例祭　七月十日

来る七月十日（水）、鹽竈神社例祭が斎行されます。

古くは陸奥国司が神事を担い、江戸時代には仙台藩主伊達家が大神主として祭祀を司りました。

午前十時より斎行され、祭典中に特殊神事「御出幣式」が執り行われます。

御出幣式は、別宮・左宮・右宮の各御本殿内に奉安されている御神幣を権宮司以下所役が奉戴し、楼門まで進み、まず南面して左右左の順に振り奉り、次に北面して同様の所作を行います。

これは国家の安泰と国民の平和を祈るもので、かつては「御朝参神事」とも称し、筆頭禰宜家が相伝する秘事でした。

また七月十四日（日）には流鏑馬神事が執り行われます。

この神事は、鎌倉時代に留守職・伊沢家景が三頭の馬を献じて流鏑馬を行い、部下の士気を高めたのが始まりと伝えられます。

例祭にあわせ、神賑行事として、市内小学校児童による書道展が絵馬殿に催されます。

御出幣式

書道展

宮城県無形民俗文化財　藻塩焼神事　七月四日・五日・六日

鹽竈神社例祭に先立ち、市内本町に鎮座する末社・御釜神社では御祭神・塩土老翁ゆかりの特殊神事「藻塩焼神事」が斎行されます。

「藻刈神事」七月四日（木）

七ヶ浜町花渕浜沖に神事船を出し、ホンダワラと呼ばれる海藻を採取する神事です。

藻刈神事

「水替神事」七月五日（金）

松島湾釜ヶ淵より満潮時の海水を汲み、神釜の古い水を海に返し、入れ替える神事です。午前十時に御釜神社において奉告祭を斎行し、午後二時に出船、海上で神事を斎行します。

水替神事

「藻塩焼神事」七月六日（土）

藻刈神事で採取したホンダワラを用いて、塩分濃度の高い塩水（鹹水）を作り、これを煮つめて塩を作ります。

古代の製塩方法の一端を伝える貴重な神事として、昭和五十四年に宮城県無形民俗文化財に指定されました。

藻塩焼神事

神事で調製された塩は、御釜神社例祭・鹽竈神社例祭で御神前に御供えされるほか、御釜神社例祭参列者にお頒ちします。

調製された塩

塩竈みなと祭

七月十五日　海の日

七月十五日（月・海の日）”やしろと魚のまち“塩竈を挙げての祭典「みなと祭」が斎行されます。

志波彦神社・鹽竈神社御両社の大神輿が市内を巡幸ののち、御座船「龍鳳丸」「鳳凰丸」に奉安され、日本三景松島湾を舞台に、大小百隻からなる供奉船団を従えて海上を渡御します。

前日に開催される花火大会や陸上パレードなど、まちは華やかに賑わいます。

御座船「龍鳳丸」

曲木神社例祭

八月一日

八月一日（木）、市内新浜町籬島に鎮座する末社、曲木神社の例祭が斎行されます。

籬島は、古くから歌枕の名所として名高く、多くの和歌に詠まれてきました。

また、国の名勝「おくのほそ道の風景地」の一つに指定されている塩竈の景勝地です。

籬島

御神田御田植祭

五月十一日、御神田において御田植祭が斎行されました。

当日は晴天のもと、各団体・一般奉仕者約一五〇名が参列し、泥に足をとられながら御田植を行いました。

これから四ヵ月間、農耕と殖産の守護神・志波彦大神の御加護のもと、秋の収穫を待つこととなります。

志波彦神社 遷祀一五〇年 記念事業

大鳥居塗替工事実施

志波彦神社が岩切より遷祀されて、今年で一五〇年を迎えました。

これを記念して大鳥居の塗替工事が実施されることとなり、五月九日に施工業者参列のもと、清祓を行いました。

大鳥居は昭和十五年に竣工し、幾度か補修工事が行われましたが、表面劣化による色斑等が著しいため、この佳節に実施となりました。

氏子崇敬会 春季大祭斎行

五月十二日、氏子崇敬会春季大祭が斎行され、桑原会長以下二〇二名の会員が参列。祭典後、新任の大世話人へ委嘱状の交付、また永年継続表彰が行われました。（敬称略）

委嘱状交付

大世話人

〈南部〉

錦・花立　佐藤　正義

令和六年度継続表彰

◇四十年表彰

〈東部〉

中の島　塩釜ガス㈱

◇三十年表彰

〈北部〉

北浜四の一　志賀　重信

◇十年表彰

〈西部〉

西町　相原　茂

〈南部〉

南町一　菅原　宏和

〈北部〉

特別区　岩井　敏彦

北浜二　及川　勝博

講社だより

各地の講社祭が斎行されました。永年継続講員の表彰や新講長へ委嘱状が交付されましたので、ご紹介します。（敬称略）

仙台千人講祭

四月二十一日、菊地講長以下二十名が参列しました。

◇四十年表彰

佐藤　善彦

◇三十年表彰

島津　義典

◇十年表彰

伊藤　正康

釜石講祈願祭

四月二十八日、津田講長以下十八名が参列しました。

◇七十年表彰

鱒沢トモ子

◇五十年表彰

東　洋子

◇四十年表彰

藤原久美子
工藤精肉店

◇三十年表彰

中田　幸子

◇二十年表彰

小野寺喜代子

◇十年表彰

田代　弘美
刈屋　竹子
中平　剛

塩竈千人講祭

六月二十三日、松戸講長以下五十名が参列しました。

◇十年表彰

鈴木　新也
鈴木　隆子

委嘱状交付

講長

松戸　信三

敬神婦人講だより

春季境内清掃奉仕

五月三十日、総勢二十五名の講員により、鹽竈神社左右宮玉垣内の清掃奉仕が行われ、和やかに取り組みました。

大年寺墓参

六月二十日、講員二十四名参加のもと、大年寺山伊達家墓所への墓参が実施されました。

当日は、塩竈に縁の深い第四代藩主綱村公の命日にあたり、綱村公並びに歴代藩主へ追悼の献花を行いました。

養成所通信

入所式

四月八日、神職養成所入所式が執り行われました。今年の新入生は一名。入所式では宣誓文を読み上げ、二年間の養成所生活が始まりました。

○新入生

〔普通課程Ⅱ類一年〕
小関　達也（山形県）

日本吟道奉賛会 吟詠吟舞奉納奉告祭

六月二日、日本吟道奉賛会による第六十二回吟詠吟舞奉納奉告祭が斎行されました。

伊藤清洲会長以下県内外より百名の会員が参列し、国歌・鹽竈神社奉納詩を拝殿で奉唱しました。

祭典後、社務所大講堂で詩吟を吟じ、日頃の稽古の成果を披露しました。

鹽竈神社奉納詩

前川清洲

霊験炳乎如日輪
霊験炳乎として日輪の如し
劫餘來拝感慨新
劫餘來り拝して感慨新なり
松聲似説無邊徳
松声説くが如し無辺の徳
萬古千秋此神仰
萬古千秋此の神を仰ぐ

北辰一刀流 演武奉納

五月四日、北辰一刀流の演武の奉納が行われました。

北辰一刀流は、江戸時代後期に宮城出身の剣豪千葉周作が創始した著名な古流剣術の流派です。千葉周作は幼少期に斗塋稲荷神社（大崎市古川鎮座）の近くで育ち、剣術を学びました。江戸で開いた道場は三大道場に数えられ、多くの門弟を育てました。

当日は、第七代宗家椎名市衛成胤氏をはじめ十五名が参拝。舞殿において演武が奉納され、日頃の鍛錬の成果を奉納しました。

奉納演武

ご結婚おめでとうございます

三月

仙台市	阿部　拓磨	
仙台市	濱口　朱李	
仙台市	佐々木陽平	
宮城郡	蒲原百合絵	
仙台市	布田　卓巳	
山梨県	赤坂　晃代	
仙台市	久道　潤也	
埼玉県	岩本　千夏	
大崎市	佐藤　俊博	
栗原市	及川　遥菜	
富谷市	岡部　武彦	
栗原市	菅原　清香	
多賀城市	永沼　啓司	
愛知県	富澤　佳美	
仙台市	舩橋　伯之	
宮城郡	阿部　和美	
登米市	原　那月	
愛知県	松村　碧	
福島県	阿武隈川凌	
福島県	田村菜津紀	

四月

東京都	田中　滋貴	
塩竈市	櫻井　桂子	
青森県	蛯名　康介	
仙台市	髙橋　七重	
本吉郡	阿部　真吾	
東京都	田保　百恵	
熊本県	後藤　祥文	
仙台市	酒井　萌	
和歌山県	友渕　貴之	
富谷市	長澤　桃子	
仙台市	佐藤　昭博	
気仙沼市	菊田　幸子	
栗原市	千葉　芳裕	
北海道	山岡美紗希	
宮城郡	佐々木　元	
柴田郡	長谷川恭子	
仙台市	高橋　啓介	
大崎市	磯田　里奈	
仙台市	伊藤　雄介	
宮城郡	星　萌華	
黒川郡	太田　直志	
東松島市	大丸　愛理	

五月

静岡県	斉藤　信三	
塩竈市	佐藤　由佳	
塩竈市	佐々木　悠	
神奈川県	谷江　碧	
群馬県	森坂　太一	
北海道	穴澤　ゆず	
山形県	冨樫　博幸	
群馬県	細谷　絵美	
東京都	中野裕太朗	
大崎市	遊佐　桃子	
福島県	松﨑　亮	
青森県	畔柳　志帆	
加美郡	伊藤　和輝	
加美郡	千葉　真凜	
塩竈市	水野　徳久	
宮城郡	加藤明日香	
東京都	島田　拓弥	
東松島市	石垣　花菜	
千葉県	細田　洋平	
秋田県	保坂　実樹	

（敬称略）

博物館だより

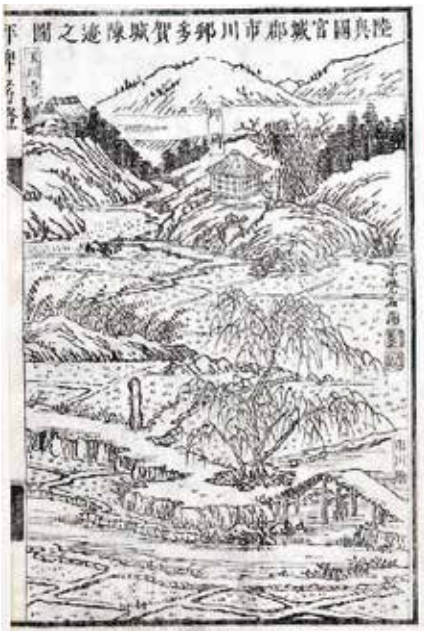
■資料紹介

多賀城創建から千三百年を迎える本年、三月には文化審議会により多賀城碑の国宝指定が答申されて話題となっています。

多賀城碑は江戸時代前期に発見され、四代藩主・伊達綱村公により保護のための碑堂が設置されました。江戸時代から諸書に取り上げられてきましたが、碑堂とその周辺の様子を図示した最も古い資料とされるのが「坪碑史證考」です。

同書は、江戸時代後期に活躍した鹽竈神社の神官・藤塚知明（ふじつか・ともあき）が碑文の内容を考証した著作で、天明三年（一七八三）に刊行されました。多賀城碑については、発掘調査の成果等を踏まえて現在さらに精緻な研究がなされていますが、本書は天明頃の様子や研究史を知るための資料として高い価値を持つものと言えます。

「坪碑史證考」見返・扉



「陸奥国宮城郡市川村多賀城陳迹之図」

国家安泰
五穀豊穣
家内安全

祭事暦（七月から九月まで）

毎月
一日　朔日祭
〃　曲木神社月次祭
六日　御釜神社月次祭
十日　鹽竈神社月次祭
二十九日　志波彦神社月次祭

七月
四日　藻刈神事
五日　水替神事
六日　藻塩焼神事
〃　御釜神社例祭
七日　牛石藤鞭社例祭
十日　鹽竈神社例祭
十四日　流鏑馬神事
十五日　みなと祭

八月
一日　曲木神社例祭

九月
二十九日　志波彦神社遷座記念祭並びに氏子崇敬会秋季大祭

安産祈願
海上安全
大漁満足

参拝記録

三月
一日　長野県・埴原神社元総代百瀬藤男氏他　六名
十二日　奈良県・薬師寺　大谷徹奨執事長他　十七名
十四日　福島県・大沼郡神社総代会
福島県神社庁大沼郡支部　二十五名
二十四日　さがら会　十名

四月
四日　東北嶽東会　代表世話人郡山宗典氏他　六名
六日　栃木県・佐野ロータリークラブ　十三名
二十日　小西美術工藝社
デービッド・アトキンソン代表取締役社長

五月
十八日　一般社団法人　Miss　SAKE　二十名
二十日　奈良県・大神神社職員研修旅行　三十四名
二十六日　茨城県・筑波山神社氏子総代会　十五名
二十七日　奈良県・大神神社職員研修旅行　三十九名

文芸欄

花月夜地酒めぐりのマイグラス　佐藤　悦子
囀りにかけあひの飯遠蔵王　菅原　和子
散り急ぐ花の心をたれか知る　齋藤　豊子
電話番の忙しさもよし風は初夏　佐藤　光江
初掘りの筍先づは刺身とす　鈴木　ゆう子
粽解くきりなき仕事放り出し　今田　須美子
たくましき母の二の腕汗の玉　上田　由美子
苗箱を漬くや堰なる用水路　大野　みよ子
島々をめぐる船渡御波平ら　今野　紀美子
杜鵑花咲く錆て海恋ふ捕鯨砲　及川　源作

東北式内社顕彰会第八回巡拝会実施

当神社内に本部を置き延喜式内社の顕彰・啓蒙を目的に活動する東北式内社顕彰会は、去る三月二十六日より二十七日の日程で第八回巡拝会を実施しました。

東北の式内社宮司を中心とした七名の参加者は、岩手県紫波町鎮座の志賀理和気神社（田村寛仁宮司）と志和稲荷神社（鱒沢知美宮司）を正式参拝。大沢温泉で一泊し、花巻市内の施設を見学するなど交流を深めました。

銅板奉納者芳名

多くの方々より銅板の奉納をいただきました。

三月
愛知県　小林　裕和　他九七名

四月
佐賀県　渡邊　和子　他一六一名

五月
埼玉県　亀田　昭代　他一一四名

（敬称略）

人事異動

新任
四月一日付
出仕　近野　秀和
五月一日付
巫女　徳永明日香
〃　菊池　澪
〃　勝　遥菜

示唆

季節の変わり目、体調管理に気をつけてお過ごしください。（慶）